本号のタイトルは、

令和７年度 埋蔵文化財の調査・展示紹介

さいたま市文化財時報

栢（かや）りぽーと

第 98 号

『埋蔵文化財』とは、地中に「埋蔵」された「文化財」のことで、我々の祖先が造り出したものが地中に保存された、当時の生活を知るための重要な資料です。この埋蔵文化財の存在が知られている土地を「埋蔵文化財包蔵地」と呼びますが、一般的には「遺跡」と呼ばれています。さいたま市内には旧石器時代から近世のものまで1,100か所以上確認されています。

埋蔵文化財は、地中から掘り出してしまうと、元に戻すことができないため、埋もれたままの状態で保存することが望ましいのですが、土木工事などで壊れてしまう場合には、記録として保存するための「発掘調査」を実施します。今年度、市内で実施した発掘調査は１７件でした（2月末現在）。

また、さいたま市では、平成28年10月から、岩槻区に所在する国指定史跡「真福寺貝塚（しんぷくじ）」の整備に向けた学術的な発掘調査を継続して行っています。

今回は、これらの発掘調査のうち、令和７年度に実施したものから主な調査成果を紹介します。

縄文時代後晩期の泥炭層と斜面堆積層　～国史跡　真福寺貝塚（しんぷくじ）～　〈岩槻区〉

東武アーバンパークライン岩槻駅の南東約1.6㎞、岩槻区大字真福寺、城南２丁目、城南３丁目に所在する遺跡です。昭和50年に国の史跡に指定されており、上記の学術調査の対象としています。

令和元年度から令和４年度までは、史跡西側の窪地から谷部にかけて、低地およびその付近の台地縁辺部の活動を明らかにするための調査を行いました。

令和５年度からは、真福寺貝塚の水辺の活動域にあたる谷部の泥炭層の調査を継続して実施しています。

今年度の調査では、縄文時代後晩期の層を主な調査対象としました。谷際斜面部では厚さ約２ｍにわたる、縄文時代後期前葉から晩期中葉にかけての斜面堆積層を検出しました。また、谷部では谷際斜面と同様に後期前葉から晩期中葉にかけての泥炭層を検出しました。多量の木材や堅果類を検出していた晩期の泥炭層に比べ、後期の泥炭層では土器以外の遺物をほとんど含まなくなることがわかりました。後期から晩期を通じて遺跡内での地形利用が変化する一端を捉えることができました。

▲谷際から谷部の調査区の様子

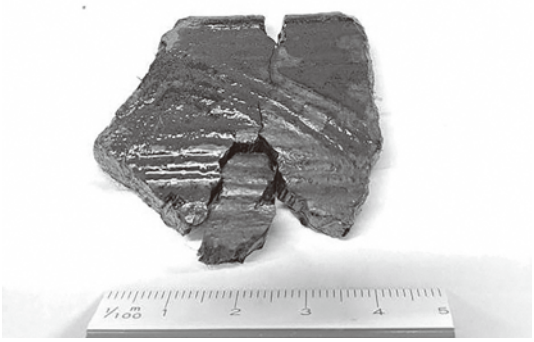
▲縄文時代後期の土器

複数の漆塗り木製品が出土 ～南鴻沼（みなみこうぬま）遺跡～ 〈中央区〉

JR浦和駅から西北西に約1.8km、中央区大戸1丁目に所在する遺跡です。解体工事に伴い、さいたま市教育委員会が令和7年5月に試掘調査を実施しました。

調査の結果、縄文時代の泥炭層を確認し、縄文時代の土器・トチの実をはじめとする様々な木の実・大型の植物遺体・漆塗りの木製品などの遺物を検出しました。

敷地南側で実施した第2次調査では土器の他に加工木や漆塗りの木製品が出土しており、今回の調査でも、同様のものが出土しました。特に漆塗りの木製品は櫛と容器の2種類が出土し、大変貴重なものです。試掘調査ではありましたが、縄文時代の貴重な遺物を検出できたほか、泥炭層の広がりを確認することができました。



▲漆塗り木製品の口縁部

縄文時代後期～晩期の集落跡 ～小深作（こふかさく）遺跡～ 〈見沼区〉

東武アーバンパークライン七里駅から北西に約250m、見沼区大字小深作に所在する遺跡です。この遺跡の発掘調査は今回で7回目になります。区画整理に先立ち、さいたま市遺跡調査会が令和7年6月から令和8年1月にかけて実施しました。

調査の結果、縄文時代後期～晩期の住居跡8軒や多数の土坑などのほか、縄文時代の土器等の遺構・遺物を検出しました。

土坑から出土した土器の中には東北地方北部の特徴を有したものが出土しており、第6次調査で出土した漆塗りの櫛と併せて、小深作遺跡に居住していた人々と東北地方との間で交流があったことが明らかになりました。また、住居跡からは炭化した編組（へんそ）製品も出土しました。

▲縄文時代晩期の土器

縄文時代晩期の遺構を初めて確認 ～並木（なみき）貝塚～ 〈大宮区〉

JR大宮駅から西に約2km、大宮区三橋2丁目に所在する遺跡です。この遺跡の発掘調査は今回で4回目になります。集合住宅の建築に先立ち、さいたま市遺跡調査会が令和7年5月から9月にかけて実施しました。

調査の結果、当遺跡で初めて縄文時代晩期の住居跡3軒や土坑などの遺構を確認したほか、多量の縄文時代晩期の土器等を検出しました。

北東側に密集する土坑からは、東北地方の影響を受けた注口土器が出土したほか、大型の土器がまとまって出土しました。意図的に埋め戻されている形跡があることから、お墓であった可能性があります。

▲縄文時代晩期の土坑墓

弥生時代の集落跡 ～谷ノ前遺跡～ 〈緑区〉

埼玉高速鉄道浦和美園駅から北西に約1.6km、緑区大字中野田に所在する遺跡です。この遺跡の発掘調査は今回で２回目になります。個人専用住宅の建築に先立ち、さいたま市教育委員会が令和7年８月から１０月にかけて実施しました。

調査の結果、弥生時代の住居跡３軒、縄文時代から弥生時代の複数の土坑、近世の土坑と、縄文時代の土器、弥生時代の土器・石鏃・土製小玉などの遺構・遺物を検出しました。

第1次調査に引き続き、弥生時代の住居跡を検出したことで、弥生時代の集落の広がりが明らかになりました。また、住居跡も焼けたものや建て替えられたものなどが見られ、当時の生活を知るうえで貴重な発見となりました。

▲弥生時代の住居跡

円筒埴輪と人物埴輪が出土 ～側ヶ谷戸貝塚～ 〈大宮区〉

JR北与野駅から西に約2.5km、大宮区三橋４丁目に所在する遺跡です。この遺跡の発掘調査は今年度で17・18回目になります。個人専用住宅の建築に先立ち、さいたま市教育委員会が令和７年３月から７月にかけて実施しました。

調査の結果、縄文時代の土坑、古墳時代の古墳周溝、中近世の溝・土坑のほか、縄文時代の土器、古墳時代の埴輪、中近世の磁器・かわらけなどを検出しました。

古墳の周溝とは、墳丘の周りに掘られたお堀のことです。今回調査した周溝は、14・16次調査で確認した周溝と同じであることがわかりました。また、17次調査地点では、多量の円筒埴輪と、1体の人物埴輪が出土しました。

▲古墳の周溝出土の人物埴輪胴部

古代の寺院跡の痕跡か ～宿宮前寺院跡～ 〈桜区〉

JR与野本町駅から西南西に約2.5km、桜区大字宿に所在する遺跡です。この遺跡の発掘調査は、今回で２回目になります。分譲住宅の建築に先立ち、さいたま市遺跡調査会が令和７年３月から５月にかけて実施しました。

調査の結果、古墳時代後期の住居跡・土坑、平安時代の住居跡・土坑、古代～中世の土坑、中世の溝のほか、古墳時代後期の土師器・鉄製品、古代の土師器・須恵器・瓦、中世の土師器・陶器、近世の陶磁器・銭貨を検出しました。

平安時代の土坑のうち3基は、等間隔に整然と並んでおり、深さが約1mに達する巨大な土坑です。これらは掘立柱建物の柱穴と考えられます。遺跡名の由来となった古代の寺院跡の存在を裏付ける、重要な発見である可能性が考えられます。

▲遺構の検出状況

埋蔵文化財の展示紹介

さいたま市では、埋蔵文化財の調査のほか、市民の皆様へ埋蔵文化財を紹介し、理解を深めていただくための活動も行っています。

令和７年９月から11月まで、市内の発掘調査の成果をいち早く紹介する「最新出土品展」を、さいたま市立博物館（大宮区）、緑区役所（緑区）、コクーンシティ（大宮区）の各会場で開催しました。公共施設のほか商業施設で開催したことで、多くの方にご来訪いただきました。

１０月２６日（日）には「真福寺貝塚 国史跡指定50周年記念シンポジウム・さいたま市内遺跡発掘調査成果発表会」を埼玉会館（浦和区）で開催し、午前中は市内の発掘調査成果を各調査担当者が発表し、午後は真福寺貝塚に造詣の深い2名の先生による発表と活用に向けた討論を行いました。

参加された方には、令和６年度に実施した発掘調査や、国指定史跡「真福寺貝塚」に関する説明などを熱心にお聞きいただきました。

▲最新出土品展（コクーンシティ）

真福寺貝塚キャラクター
福みみーズ

国指定特別天然記念物「田島ケ原サクラソウ自生地」のご案内

田島ケ原サクラソウ自生地（桜区田島・桜草公園内）では、サクラソウが３月下旬ごろから咲き始め、４月上旬に見ごろを迎えます。開花に合わせ、サクラソウの魅力を伝えるイベントが開催されますので、ぜひお越しください。また、さいたま市のホームページではサクラソウの開花状況をお知らせしていますので、ご覧ください。

サクラソウWeeks2026	さくら草まつり2026
3月27日（金）～4月19日（日）　１０時～１５時	4月11日（土）　１０時～１６時
サクラソウの開花時期にあわせて、ボランティア団体「田島ケ原サクラソウ自生地を守る会」による案内を実施いたします（雨天・荒天中止。内容変更時は市ホームページで周知）。 動植物の多彩な姿に触れながら、田島ケ原サクラソウ自生地の奥深い魅力をお楽しみください。	（公社）さいたま観光国際協会主催、さいたま市・さいたま商工会議所共催により、桜草公園でステージイベントや飲食物の販売等が行われるほか、浦和駅東口駅前市民広場でさくら草の実費頒布や展示、栽培相談コーナーの設置等が行われます。

さいたま市文化財時報
梠りぽーと　第98号
令和８年３月16日

《編集・発行》
さいたま市教育委員会事務局 生涯学習部 文化財保護課
〒330-9588　さいたま市浦和区常盤6丁目4番4号
☎048-829-1723　FAX048-829-1989
さいたま市　梠りぽーと　で　検索
過去の梠りぽーとは右の二次元コード参照

この刊行物は1,200部作成し、１部あたりの印刷経費は40円です。
ISSN 2186-747X